

## 「市立美術館の建設」

市立美術館は昭和29年9月に開館、以来ユニークな地方美術館として郷土の美術振興に寄与してきましたが、増大する収蔵品と多様化する市民の文化的ニーズに対応することが困難となり、旧美術館を解体撤去して、跡地に新美術館が建設されることになりました。

50年10月に「市立美術館建設調査会」が設置され、美術館建設のための基本構想と性格、位置、規模の3点について審議が重ねられました。そして、53年11月に美術館長に①地元関係作家の作品を中心に、近代の作品を主として収集、展示する②位置は現在地が適当③規模は床面積65000〜70000平方メートルが適当、という答申がなされました。市議会では52年の第1回定例会で総務文教委員長が「美術館のあり方や新しい美術館建設については前向きに検討されたい」と要望しました。

57年第1回定例会で当局側は、「基本的には調査委員会答申を尊重する。

19世紀末以降の内外作品を中心とした近・現代美術館とする。設計については周辺環境と調和し、未来への遺産として継承し得る構造とする」と説明しました。

新美術館の建設を機に、モネ、ルノアール、セザンヌの油彩画や、ロダンの彫刻など西洋美術の作品を購入し、収蔵美術品の充実が図られました。

こうして昭和60年10月に開館した新美術館。令和元年7月19日から9月1日まで、水辺の風景を愛した画家『シャルル・フランソワ・ドービニー展』を開催中です。

